

# 郷土かみのかわの歴史・文化財

## 町指定文化財 浄光寺の板碑

「板碑」という石碑をご存知でしょうか。「板石塔婆」とも呼ばれる石製塔婆の一つで、石材を板状に加工して梵字・年月日・製作した理由などが刻まれています。

一般的に形は上部を三角にし、その下に二条線をつけるといった特徴があります。この板碑が最初に現れたのは鎌倉時代の初めに武蔵国（現・埼玉県）で、その後、鎌倉時代後期になると、武士の間における仏教信仰の深化に合わせて徐々に、徐々に広がりを見せ、南北朝時代に一番のピークを迎えましたが、室町時代から戦国時代になると徐々に作られなくなりしました。

この板碑は使用する石材で大きく2種類に分かれます。秩父地方で産出される緑泥片岩を使用して製作された武蔵型板碑と、主に筑波山周辺で産出される絹雲

母片岩を使用した常総型板碑の2種類です。前者は荒川水系を通じて関東地方諸地域に広がり、更には鎌倉幕府で活躍した関東の武士たちが、新たな領地を得て、全国に広がっていくのにあわせて普及したのでした。

今回紹介する板碑がある大山の浄光寺は、1301（正安3）年開山と伝えられる寺院です。この板碑は境内の西側の高台にあった建物に長らく収められていたもので、一基には正和2（1313）年7月8日の日付が刻まれており、浄光寺が建立されてから、僅か12年後に作られたものであることがわかります。もう一つの板碑には、正和4（1315）年の刻まれていることから、ほぼ同時に製作されたことが分ります。2基とも深くはつきりした一

遍流の文字で、「南無阿弥陀

仏」の文字が刻まれています。これは1282（弘安5）年に一遍が下野で巡化を行ない、時宗の信者が増えた時期に重なるためと考えられます。また、大きさは180cm近くあるなど、非常に立派なものです。

残念ながら、この2基の板碑には、これを建立した人の名前や、その意図などは刻まれていませんが、大山という場所から考えると、多功城の有力な家臣が、家族や祖先の供養や、自身自身の極楽浄土を願って、建立したと考えられます。



浄光寺の板碑

室町時代			鎌倉時代											西暦					
	1339	1336		1333	1332	1331		1315	1313	1310	1307	1301	1283	1282	1282	1281	1277	1259	西暦
	暦応2	建武3		正慶2	元弘2	元徳3		正和4	正和2	延慶3	徳治2	正安2	弘安6	弘安5	弘安5	弘安4	建治8	正元元	元号
足利尊氏、後醍醐天皇を弔うため、天竜寺を創建する。	南朝方の春日頸国軍、宇都宮城・飛山城の北朝軍を破る。	足利尊氏、京都に幕府を開く。	鎌倉幕府滅亡。	宇都宮公綱、四天王寺の楠木正成軍を攻める。	後醍醐天皇が隠岐に流される。	足利高氏、宇都宮公綱ら、幕府に従い西上する。	鎌倉で大火が起こる。	浄光寺の板碑が作られる。	浄光寺の板碑が作られる。	鎌倉で大火が起こる。	関東に大地震が起こる。	浄光寺が開かれる。	宇都宮景綱、「宇都宮家弘安式条」を制定する。	一遍上人、下野巡化。	多功宗朝の三男朝定、分家し児山城を築く。	宇都宮貞綱、元寇に際して、中国地方の軍勢を率い、九州に向かう。	初代上三川城主横田頼業、逝去。	このころ、宇都宮一族の「新〇和歌集」が成立する。	できごと

**巡回バス最寄りバス停**  
 明治北線（みどりのバス）  
 大山郵便局下車、徒歩5分  
 ▼問い合わせ先＝  
 生涯学習課 生涯学習係  
 ☎9159